

第4学年1組 社会科学習指導案

指導者 藤原良平

【本時で目指す子どもの姿】

後継者・参加者不足という課題を抱えている「どう行列」が様々な慣習を変えていきながらも、変えていない慣習があることについて、「どう行列」を保存・継承するときに大切にしていることと関連付けて考えようとする姿

【具体的な手立て】

どう行列が抱えている課題を解決するために工夫していることについて、変えている慣習があることを確認しながら、唯一変えていない慣習「叩き手は当日だけの参加が認められていない」がある理由について考える。

1 単元名 思いを受け継ぎ、みんなで守る松江の年中行事「どう行列」

— 100年もの間、受け継いでいるものは何だろう —

2 単元のねらい

松江の年中行事「どう行列」の起こりやいわれ、行事の現状やそれを受け継ぐ人々の取組などを具体的に調べ、地域の人々が受け継いできた様々な年中行事の中には地域の発展やまとまりなどへの願いが込められていることや、それらを保存し継承する人々の工夫や努力がわかる。

3 授業の構想

(1) 以下に示すふりかえりは1学期「ごみの処理と利用」の学習のまとめとして振り返ったものである。

自分たちが出している燃やせるごみはリサイクルすることでスラグやメタルとなって、道路工事に使ったり、鉄の原料に生まれ変わったりすることがわかりました。リサイクルする理由は未来の子どもたちへきれいな自然を残したいからだと思います。それから自分たちができることを考えてみて、学校の中島さんはすごい方だなと思いました。こわれた熊手をテープで直して再利用しているからです。使っていて、とても気に入っているとっておられてすてきだなと思いました。ごみは0にはならないから、気を付けたことはごみになるものをあまり買わなかったり、マイバックをもったりして、なるべくごみの少ない生活をしたいです。 児童

1学期「ごみの処理と利用」の学習では、子どもたちにとって身近なものである学級や学校で出るごみを調べたり、身近にいる校務技師の中島さんの話を聞いたりして学習を始めた。その後は実際にごみ処理場に見学に行ったり、リサイクル都市推進課の方を招いて話を聞いたりするなど、具体的なものや人に出会うことを学習対象との出会いとして授業を行った。上記のふりかえりからわかるように、子どもにとって身近なものを対象として学習を進めること、実際に自分の目で見る、聞くといった具体的な調査・見学活動を繰り返し行いながら学習を進めることで、松江市のごみ処理の仕方やリサイクルの意味についての追求が続き、理解を深めることができた。また、ごみ処理の仕方を理解するだけでなく、これまで経験してきたことをもとに、身近にリサイクルを実践されている方に思いを馳せたり、ごみの減らし方についても自分のくらしとつなげながら考えたりすることができた。

本単元で扱う「どう行列」は毎年10月の第3日曜日に行われており、今年100周年を迎える

年中行事である。石橋町や殿町といった在学する子どもの地区にもどうを所有しているところが多くあるため、一度は見たことがあるという子どもだけでなく、今年の「どう行列」に参加した子どももいるであろう。この時期にどう行列を扱うことで、見た感想や参加した体験談など、子どもたちの記憶が鮮明なまま実感を伴った学習をすることができる。一方で、行事自体は知っていても、実際に参加したことがないという子どもが多いことも予想される。

そこで、学習を進める上では、どう行列に携わる方々に話を聞くこと、実際に使っているどうや道具に触れるような具体的な人やものに出会う調査・見学活動を大切にする。また、それと同時に調査・見学活動を通して生まれる新たな問いについて考える場を設定し、そのサイクルを繰り返し行っていく。本単元では子どもたちが「どう行列」を通して、地域の人々が大切に思い、受け継いできたものの具体について考える姿を大切にする。そうすることで、どう行列に携わる方々の工夫や努力の裏にある願いについて具体的にとらえることができるようにする。このような学習活動を通して、地域の年中行事と自分のくらしとのつながりについて、気付きを深めることができるようにしたい。そして、子どもたち自身が自分も松江市民であること、また〇〇地区の一人であることに気付き、地域の行事に思いを馳せたり、かかわりたいという思いを高めたりするような、地域の一員として自覚する姿を期待したい。

(2) 本単元で扱う「どう行列」は第3・4学年学習指導要領の内容(5)のイ「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」を扱うものである。年中行事を学習するにあたっては、地域の発展やまとまりなどへの人々の願いがこめられていることを取り上げ、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いや保存・継承するための工夫や努力を考えることを大切にしている。

本単元では、「どう行列」という学習対象を子どもにとって身近なもの、そしてもっと知りたい追求したいものとしてとらえることができるよう工夫する。どう行列に携わる方々に話を聞くこと、実際に使っているどうや道具に触れるような調査・見学活動を「どう行列」との出会いとし、子どもが自分の目で見える学習を大切にしたいと考えている。そこで、まず初めに今年の写真や体験談をもとに「どう行列」について知っていることを話し合う。今年のどう行列について話をしていく中で、今年がどう行列100周年であることに気付くことができるようにする。そこで、多くの子どもたちがもつ問いは「100年も続いているどう行列はどんな行事なのだろう。なぜ100年も続いているのだろう」ということであろう。そこで、この問いについて、今年の「どう行列」の映像や資料集をもとに調べていく。学習を進めていく中で子どもたちは「何のために毎年しているのか」、「どんな道具をつかっているのか」、「100年続いているどう行列にはどんな特徴やきまりがあるのか」といった具体的な問いを考えるであろう。そのような問いを解決するため、どう行列保存会会長の長崎さんから話を聞く。実際の学習では、どう伝承館に行き、道具を見たり、笛の鳴らし手の方に協力をいただきながら、どうを鳴らしてみたりといった実感の伴う調査・見学活動を行う。そして、その際に「どう行列」が抱えている参加者・後継者不足という課題があることを聞く。その後は抱えている課題を解決するために、どう行列保存会がどんな工夫をしているのか予想し、実際に長く参加している石橋三丁目と、どう友会の方に「どう行列」の慣習について話を聞く。昔からある「どう行列」の慣習には以下のものがある。

○どう行列には男性しか参加できない。

○地区に住んでいる人がその地区の団体としてどう行列に参加する。

○練習は通年を通してできるが、9・10月の本番に向けた練習は日没後から21時まで。叩き手や鳴らし手は練習をした上で、本番に参加する。

このような慣習について話を聞いた上で、現在は後継者不足や男女平等の観点から、男女が同

じように行事に参加していることや、地区外の人にも参加を求めたり、市報や旅行会社を通して参加者を募ったりしている事実を知る。実際に長く「どう行列」に参加している方々に話を聞くことで、「どう行列」を保存・継承をするために時代に合わせて慣習を変えているといった工夫をしていることに気付けるようにする。

本時では参加者、後継者が不足しているといった課題の解決のために様々な慣習を変えていきながらも、昔からずっと変えていない慣習「叩き手は当日だけの参加はできない」がある理由について考える。後継者や参加者を増やし、「どう行列」を続けていくために様々な工夫をしていたことをとらえた子どもにとって、概念をくつがえす事実を提示することで、「どう行列」を保存・継承する人々の願いについての追求を深めていきたい。また理由について意見を伝え合う場では、石橋地区の練習の様子を提示することで、保存・継承する際に大切にしている具体について話し合いができるようにする。そうすることで、「どう行列」という行事自体を残すことが目的なのではなく、昔から受け継がれてきた技や人々の思いを受け継ぎながらも、地域や地区の人のつながりを大切にしていることに気付けるようにする。本時の話し合いを通して、どう行列を守っている人が受け継いできたものが何なのが具体的に考え、受け継いできたものについての再認識ができるようにしたい。

4 展開計画（全11時間 本時 9/11）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇追求する子どもの姿
1	1 2 3・4 5	○松江の年中行事「どう行列」は、どんな祭りなのか調べる。 ・「どう行列」について知っていること、参加した体験談を伝え合う。 ・資料集や経験したことをもとにどう行列の内容について調べる。 ・どう伝承館を見学し、どう行列保存会会長長崎さんから話を聞く。 ・長崎さんから聞いた話をもとに、わかったこと感じたことについて話し合う。	◇どう行列について参加した体験談や見た感想を意欲的に伝える。 ◇どう行列の内容や道具について資料集を使って調べる。 ◇実際にどう行列で使う道具や山車の見学をしたり、保存会会長の話を聞いたりしながら、どう行列の内容を知り、魅力を感じる。
2	6 7 8 ⑨	○参加者の減少、後継者不足などの課題を抱えているどう行列が続けるための工夫していることや続けている理由について考える。 ・どう行列が抱えている課題解決の工夫について考える。 ・課題解決の工夫について、石橋3丁目の方、どう友会の方に話を聞いて確かめる。 ・どう行列を保存・継承するための工夫の共通点について話し合う。 ・様々な慣習が変わっている中で、「叩き手は当日だけ参加することはできない」ことについて、その理由を考え、伝え合う。	◇どう行列保存会が参加者・後継者を増やし、続けていくために工夫していることについて考える。 ◇2つの団体の工夫を聞きながら、昔から続いている慣習があること、参加者や後継者を増やすための工夫の共通点について考える。 ◇どう行列の昔から続いているきまりの中で、唯一変えていない内容について、理由を考える。
3	10・11	○松江市で行われているその他の年中行事について「どう行列」と比べながら調べる。 ・副読本やその他資料をもとに調べる。	◇松江市や地域の他の祭りについて、どう行列と比べながら、内容や工夫を調べる。

5 本時の学習

(1) ねらい

後継者・参加者不足という課題を抱えている「どう行列」が様々な慣習を変えながらも、変えていない慣習「叩き手は当日だけの参加を認めていない」がある理由について考えることで、どう行列が保存・継承するとき大切にしていることについて気付くことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. どう行列が抱えている課題の解決のために工夫していることについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者が増やし、魅力をより多くの人に知ってもらうための工夫をして守っていたな。 昔から大切にしてきたことを守りながらもきまりを少しずつ変えてどう行列を続ける工夫をしていることは同じだったな。 <p>2. 唯一昔から変えていない慣習があることを知り、本時のめあてをつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの子どもたちのふりかえりを伝え合い、これまでの学習の気づきを共有する。 2つの団体の工夫やどう行列の慣習を振り返り、参加者や後継者を増やしながらい「どう行列」を続けていることを確認する。 松江市報で参加者募集の記事を見た方が当日までに練習をした上で当日叩き手として参加できたことを紹介する。
<p>昔から受けついでいるいろんなきまりが変わっている中で、なぜ「叩き手は当日だけ参加することは認められていないのか」考えよう</p>	
<p>3. 「叩き手が当日だけの参加することは認められていない」理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> どう行列の魅力を多くの人に感じてもらうためには、当日参加を認めて参加者を増やした方がいいと思う。 当日だけの参加なら練習をしないわけだから、演奏なんてできない。それにどう行列の良さもみんなに伝わらないと思う。 当日の演奏だけでなく、別のことも大切にしていると思う。地区の練習に子どもからおじいさんまで参加していることも、技を伝えることや交流を大切にしているからだ。 <p>4. 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> どう行列に携わる人は魅力をより多くの人に知ってもらうため、いろいろな工夫をしていることがわかりました。ただ行事を続けるのではなく、これまでの技術を守り、祭りを盛り上げていました。そして、こういったものを守りながらも本当に残したいものは地区や地域の人同士のつながりなんだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 唯一変わっていない「当日のみの参加はできない」という慣習の理由について考えることで、参加人数を増やすことだけを大切にしていることに気づけるようにする。 どうの経験者であっても、当日だけの参加はできないことから、技術面だけが認めない理由ではないことに気付けるようにする。 何を保存・継承したいのか、子どもの意見を掘り下げること、どう行列に携わる人が大切にしている技の継承や祭りの活性化に気付けるようにする。 石橋3丁目の練習映像の中で、子どもたちが練習する姿や休憩時間の様子を見ることで一番大切にしていることが地区の人同士の交流やつながりを深めることであることに気付けるようにする。 <div data-bbox="810 1839 1434 2022" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価の観点（思考・判断・表現） どう行列で「叩き手は当日だけ参加することは認められていない」理由について、保存・継承するとき大切にしていることと関連づけながら考えている。 【評価方法 発言・ノート】</p> </div>

